

動物形態機能学					
科目名	動物形態機能学				
担当教員	青木 和孝	実務授業の有無	○		
計画学科	動物保健科、ペットリ・リバー・リバー科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	128
授業概要、目的、授業の進め方	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物を総論、組織、臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	動物の体の構造と機能を理解することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	動物形態機能学総論	テキスト、パワーポイント			
2	形態学（解剖学）とはなにか	テキスト、パワーポイント			
3	動物学（解剖学）とはなにか	テキスト、パワーポイント			
4	生物学の復習 細胞とは、組織とは	テキスト、パワーポイント			
5	生物学の復習 細胞とは、組織とは	テキスト、パワーポイント			
6	生物学の復習 細胞とは、組織とは	テキスト、パワーポイント			
7	動物の体の機能 生命の維持システム	テキスト、パワーポイント			
8	動物の体の機能 生命の維持システム	テキスト、パワーポイント			
9	動物の体の基本構造 細胞とは、組織とは	テキスト、パワーポイント			
10	動物の体の基本構造 細胞とは、組織とは	テキスト、パワーポイント			
11	消化器系 胃の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
12	消化器系 胃の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
13	消化器系 消化管の成り立ちと構造、はたらき	テキスト、パワーポイント			
14	消化器系 消化管の成り立ちと構造、はたらき	テキスト、パワーポイント			
15	消化器系 消化管の成り立ちと構造、はたらき	テキスト、パワーポイント			
16	消化器系 小腸、膵臓、肝臓、大腸の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
17	消化器系 小腸の構造とはたらき	テキスト、パワーポイント			
18	消化器系 小腸の構造とはたらき	テキスト、パワーポイント			
19	呼吸器系 呼吸系の成り立ちと構造、はたらき	テキスト、パワーポイント			
20	呼吸器系 呼吸系の成り立ちと構造、はたらき	テキスト、パワーポイント			
21	呼吸器系 ガス交換、外呼吸と内呼吸	テキスト、パワーポイント			
22	呼吸器系 ガス交換、外呼吸と内呼吸	テキスト、パワーポイント			
23	泌尿器系 泌尿器系の成り立ちと構造	テキスト、パワーポイント			
24	泌尿器系 泌尿器系の成り立ちと構造	テキスト、パワーポイント			
25	泌尿器系 腎臓の構造とはたらき	テキスト、パワーポイント			
26	泌尿器系 腎臓の構造とはたらき	テキスト、パワーポイント			
27	泌尿器系 オスの生殖腺、雄の生殖腺	テキスト、パワーポイント			
28	泌尿器系 オスの生殖腺、雄の生殖腺	テキスト、パワーポイント			
29	復習・まとめ				
30	期末試験				
31	期末試験の振り返り				
32	復習・まとめ				
33	内分泌系 内分泌機能と作用	テキスト、パワーポイント			
34	内分泌系 内分泌機能と作用	テキスト、パワーポイント			
35	内分泌系 代表的なホルモンとはたらき	テキスト、パワーポイント			
36	内分泌系 代表的なホルモンとはたらき	テキスト、パワーポイント			
37	神経系 神経系の成り立ちと構造、中枢神経系と末梢神経系の構成と機能	テキスト、パワーポイント			
38	神経系 神経系の成り立ちと構造、中枢神経系と末梢神経系の構成と機能	テキスト、パワーポイント			
39	神経系 自立神経系、交感神経、副交感神経	テキスト、パワーポイント			
40	神経系 自立神経系、交感神経、副交感神経	テキスト、パワーポイント			
41	感覚器系 眼の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
42	感覚器系 眼の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
43	感覚器系 耳の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
44	感覚器系 耳の構造と機能	テキスト、パワーポイント			
45	皮膚系 皮膚の構造	テキスト、パワーポイント			
46	皮膚系 皮膚の構造	テキスト、パワーポイント			
47	皮膚系 皮膚の付属器	テキスト、パワーポイント			
48	皮膚系 皮膚の付属器	テキスト、パワーポイント			
49	血液 血液の成分とはたらき、血液の種類	テキスト、パワーポイント			
50	血液 血液の成分とはたらき、血液の種類	テキスト、パワーポイント			
51	血液 血液凝固	テキスト、パワーポイント			
52	血液 血液凝固	テキスト、パワーポイント			
53	免疫系 免疫細胞と抗体因子	テキスト、パワーポイント			
54	免疫系 免疫細胞と抗体因子	テキスト、パワーポイント			
55	免疫系 免疫の分類、リンパ系器官、アレルギーについて	テキスト、パワーポイント			
56	免疫系 免疫の分類、リンパ系器官、アレルギーについて	テキスト、パワーポイント			
57	代謝 代謝とは	テキスト、パワーポイント			
58	代謝 代謝とは	テキスト、パワーポイント			
59	代謝 栄養素の代謝	テキスト、パワーポイント			
60	代謝 栄養素の代謝	テキスト、パワーポイント			
61	復習・まとめ				
62	期末試験				
63	期末試験の振り返り				
64	復習・まとめ				
評価方法・成績評価基準	履修上の注意				
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。	動物看護を前提として動物種による体の構造の違い、疾患の基礎を理解するために知識として実際の授業と関連付けて理解を深める。				
実務経験教員の担当	動物看護師として現在も勤務				

科目名 動物感染症学Ⅰ					
担当教員	山下 静香		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	微生物の分類や生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	授業概要、感染症を学ぶ意義		狂犬病のDVD鑑賞※レポート提出		
2	感染について 感染とは/感染症の経過/種類/感染経路		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
3	感染症の予防 感染が成り立つには/感染を成立させないためには		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
4	消毒と滅菌 消毒と滅菌の定義		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
5	消毒と滅菌 消毒、滅菌の方法と使い分け		テキスト朗読、板書 ※小テストを実施		
6	微生物学 微生物とは/病原微生物とは/細菌について		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
7	微生物学 細菌について/真菌について		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
8	微生物学 ウイルスについて		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
9	微生物学 犬・猫の主な細菌感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
10	微生物学 犬・猫の主な細菌感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
11	微生物学 犬・猫の主な真菌感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
12	微生物学 犬・猫の主な真菌感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
13	微生物学 犬・猫の主なウイルス感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
14	微生物学 犬・猫の主なウイルス感染症		テキスト朗読、板書 ※小テストを実施		
15	期末試験		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
16	期末試験の振り返り		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
17	微生物学 犬・猫以外の動物の代表的な感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
18	微生物学 犬・猫以外の動物の代表的な感染症		テキスト朗読、板書 ※小テストを実施		
19	免疫学 免疫とは/自然免疫と獲得免疫		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
20	免疫学 抗体とは/アレルギー		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
21	免疫学 ワクチンとは/ワクチンの必要性/生ワクチン・不活化ワクチン		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
22	免疫学 ワクチネーションとは/ワクチネーションに影響する因子		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
23	免疫学 コアワクチンとは/ノンコアワクチンとは		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
24	免疫学 犬のワクチンについて		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
25	免疫学 猫のワクチンについて		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
26	免疫学 ワクチネーションプログラム(犬)		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
27	免疫学 ワクチネーションプログラム(猫)		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
28	免疫学 ワクチンの副作用		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
29	免疫学 ワクチン[飼い主シミュレーション]		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
30	免疫学 まとめ		テキスト朗読、板書 ※小テストを実施		
31	期末試験				
32	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			履修範囲が広く多岐に及ぶため、定期的に小テストを実施し復習をする。また、その点数により学生個々の修得レベルを把握し必要に応じて再テストや再提出を行う。また、なるべく多くの学生より朗読をさせて、全員に意識づけを行う。 感染症のリスクやワクチンについてなどは、飼い主に説明ができるレベルを目指す。一般の飼い主が理解しやすいように、まずは学生個々がきちんと正しい知識を習得しなくてはならない。		
実務経験教員の経歴	動物看護師として約4年勤務				

科目名	動物看護学概論				
担当教員	岡崎 康隆		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	人と動物の調和に関わることを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	歴史上にみる獣医療の歴史		パワーポイント資料		
2	日本国内の獣医療の歴史		パワーポイント資料		
3	日本国内の動物看護の軌跡		パワーポイント資料		
4	資格化に向けての動きと軌跡		パワーポイント資料		
5	愛玩動物看護師の職域と現状		パワーポイント資料		
6	欧米の動物看護師の職域との相違		パワーポイント資料		
7	動物看護の概念		パワーポイント資料		
8	動物看護の本質		パワーポイント資料		
9	職務範囲について		パワーポイント資料		
10	動物看護の対象		パワーポイント資料		
11	チーム獣医療における動物看護師と獣医師の担当職域の違い		パワーポイント資料		
12	動物看護師と獣医師の視点の違い		パワーポイント資料		
13	チーム医療として必要となる言葉		パワーポイント資料		
14	獣医師と違った視点での支援		パワーポイント資料		
15	筆記試験				
16	フィードバック				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			<p>動物看護師の職業としての現状を把握し、自身の求める動物看護師像の元を作る。</p>		
実務経験教員の経歴	動物病院にて8年間の実務経験あり				

科目名		動物医療関連法規				
担当教員		竹石 拓矢		実務授業の有無	○	
対象学科		動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		獣医療現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。また、2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護者の倫理要項2009」と「動物看護者の業務指針」（2012）についても学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標（到達目標）		動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	動物関連法令を学ぶ意義、日本の法令体系		パワーポイントの投影、レジユメの書き込み			
2	愛玩動物看護師法		パワーポイントの投影、レジユメの書き込み			
3	獣医師法、獣医療法		パワーポイントの投影、レジユメの書き込み			
4	獣医療法、家畜伝染病予防法		パワーポイントの投影、レジユメの書き込み			
5	感染症法、狂犬病予防法		パワーポイントの投影、レジユメの書き込み			
6	薬機法、麻薬取締法		パワーポイントの投影、レジユメの書き込み			
7	振り返りテスト		これまでの学習の振り返りテスト実施			
8	期末試験					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			本科目は愛玩動物飼養管理士2級合格に必要な法規の知識を習得する。授業で配布する資料についても熟読が必要。			
実務経験教員の経歴		ドッグトレーナーとして約1年間トリミングサロンにて勤務				

科目名		人と動物の関係学						
担当教員		青木 和孝		実務授業の有無		○		
対象学科		動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年		1	開講時期		前期
必修・選択		必修	単位数		2	時間数		32
授業概要、目的、授業の進め方		動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解する 対面授業で実施						
学習目標 (到達目標)		人と動物の調和に関わることを学ぶことができる						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	人と動物の関係の歴史				パワポ資料			
2	人と動物の関係のなりたち				パワポ資料			
3	人と動物の絆について				パワポ資料			
4	動物が人に及ぼす影響について				パワポ資料			
5	動物介在活動（AAA）の定義				パワポ資料			
6	動物介在療法（AAA）の事例紹介				パワポ資料			
7	動物介在療法（AAT）の定義				パワポ資料			
8	動物介在療法（AAT）の事例紹介				パワポ資料			
9	動物介在教育（AAE）の定義				パワポ資料			
10	動物介在教育（AAE）の事例紹介				パワポ資料			
11	さまざまな人と動物の関係 子どもと動物の関係				パワポ資料			
12	さまざまな人と動物の関係 高齢者と動物の関係				パワポ資料			
13	さまざまな人と動物の関係 使役動物と人の絆				パワポ資料			
14	訪問活動に向けて				パワポ資料			
15	期末試験							
16	期末試験の振り返り							
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					科学的なエビデンスに基づいた人と動物の相互関係の理解。動物福祉を考慮した参加動物の選別とトレーニング法の選択を理解する。			
実務経験教員の経歴		動物看護師として現在も勤務						

科目名	生命倫理・動物福祉				
担当教員	山崎 恵子		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	日本や世界の動物業界の現状や動物福祉のあり方について理解することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物の代弁者になることについて				
2	真の動物愛護とは				
3	ブリーディングの問題				
4	飼い主の責任				
5	動物の死とペットロス				
6	シェルターワーク				
7	動物虐待				
8	災害時の動物				
9	犬のデイケア				
10	犬猫の行動学				
11	Tタッチ理論				
12	Tタッチ実践		特別講義		
13	動物愛護教育				
14	動物保護活動				
15	期末試験				
16	エコ・ツーリズム				
17	動物愛護法				
18	アニマル・エシックス（実験動物・産業動物）				
19	アニマル・エシックス（展示動物）				
20	アニマル・エシックス（補助犬）				
21	安楽死とペットロス		特別講義		
22	動物愛護法と動物の福祉		特別講義		
23	期末試験				
24	動物との共生				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			全ての授業に出席し、かつ毎回のテーマごとにレポートを提出すること。		
実務経験教員の経歴	一般社団法人アニマル・リテラシー総研				

科目名	動物行動学				
担当教員	中野 貴行	実務授業の有無	×		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	犬や猫の行動様式の特徴を様々な視点から学び、犬や猫の本質などを理解させる。テキストとパワーポイントを使用しながら授業を進めていく。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	人と動物の調和に関わることを学び、それを元に犬や猫の行動についてアドバイスできるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	動物行動学の概論、歴史				
2	犬と猫の歴史と家畜化について				
3	行動の動機付け、神経伝達物質				
4	行動の発達について（新生子期～高齢期）				
5	犬と猫のコミュニケーションについて				
6	犬と猫の社会行動について（性行動も含む）				
7	維持行動について				
8	学習理論について（生得的行動、習得的行動）				
9	学習理論について（馴化、洪水法、消去、消去バースト、脱感作など）				
10	学習理論について（古典的条件付け、オペラント条件付け）				
11	学習理論について（オペラント条件付け）				
12	行動問題のアプローチについて 定義、要因				
13	行動問題のアプローチについて 主な問題行動、修正と予防				
14	犬具について				
15	期末試験実施				
16	期末試験の解説				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	専門学校教員として13年勤務				

科目名		動物医療関連法規			
担当教員		竹石 拓矢		実務授業の有無	○
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	<p>獣医療現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。また、2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護者の倫理要項2009」と「動物看護者の業務指針」(2012)についても学ぶ。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	動物取扱業者、動物取扱業者の責務	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
2	虐待と罰則、特定動物、愛護管理法の普及啓発	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
3	動物愛護推進員と犬猫の収容、周辺の生活環境の保全	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
4	身体障害者補助犬法、ペットフード安全法	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
5	鳥獣保護法、ペット業界の現状とこれからの課題	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
6	産業廃棄物処理法、外来生物法	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
7	振り返りテスト	これまでの学習の振り返りテスト実施			
8	期末試験				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		本科目は愛玩動物飼養管理士2級合格に必要な法規の知識を習得する。授業で配布する資料についても熟読が必要。			
実務経験教員の経歴	ドッグトレーナーとして約1年間トリミングサロンにて勤務				

科目名 愛玩動物学					
担当教員	広川美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理方法及びエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	様々な動物の特性と人との関わりを理解し、飼い主にアドバイスができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	愛玩動物飼養管理士の社会活動				
2	動物愛護論1				
3	動物愛護論2				
4	人と動物の関係学				
5	動物関係法令1				
6	動物関係法令2				
7	動物関係法令3				
8	動物関係法令4				
9	動物関係法令5				
10	動物関係法令6				
11	その他、関係法令+復習小テスト				
12	テスト+解説				
13	動物のからだの仕組みと働き①				
14	動物のからだの仕組みと働き②				
15	動物の飼養管理				
16	犬、猫の飼養管理、品種や役割				
17	犬、猫の飼養管理、しつけ、日常の管理				
18	ウサギ 日常の管理				
19	ウサギ 飼養管理				
20	フェレット 日常の管理				
21	フェレット 飼養管理				
22	ハムスター 日常の管理				
23	ハムスター 飼養管理				
24	モルモット 日常の管理				
25	モルモット 飼養管理				
26	チンチラ 日常の管理、飼養管理				
27	その他哺乳類の飼養管理				
28	鳥類の飼養管理1				
29	鳥類の飼養管理2				
30	爬虫類				
31	復習小テスト				
32	テスト+解説				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師兼トリマー10年、独立サロン経営18年				

科目名		動物内科看護学Ⅰ			
担当教員	遠藤純一		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	獣医療を受けるさいに必要な検査や補助業務の内容を理解し、知識を身につける。 人と犬にとって安全であり、犬が安心していられる接触のしかたを知る。犬の健全な管理と飼育を遂行する重要性を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	診療補助に必要な技術 動物看護師の役割 一般的な管理、運動の管理、排泄の管理、病気の早期発見のための管理		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
2	診察の準備、衛生管理 動物看護師が行う動物病院での診察補助、		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
3	保定法（犬、猫）		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
4	保定法（エキゾチックアニマル）		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
5	バイタルチェックと体重測定、定期的な健康診断 犬と猫の健康とはなにか		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
6	注射器及び管理方法 注射針、シリンジ等の取り扱いと基礎知識		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
7	採血の方法		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
8	採尿の方法		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
9	薬の処方について 薬の取り扱いと基礎知識		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
10	内服薬の使用法、薬剤の注射法、外用薬の使用法		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
11	食事の管理、投与方法		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
12	輸液に関わる技術 輸液管理、輸液ルート		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
13	輸血に関わる技術 輸血の基礎知識		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
14	被毛や皮膚の管理（ブラッシング、シャンプー、歯磨きなど）		動物看護実習テキスト パワーポイント資料		
15	臨床検査の種類		動物看護師が関わる臨床検査の種類（検体検査、生体検査）にはどのようなものがあるのか、を知る。		
16	主要な検査機器		検体検査・生体検査に使用する主要な検査機器について知る		
17	心電図検査 概論		心電図検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
18	レントゲン検査 概論		レントゲン検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
19	放射線学		放射線の性質や防護、生体への影響について		
20	レントゲン検査の保定		レントゲン検査の保定方法		
21	CT・MRI検査 概論		CT・MRI検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
22	超音波検査 概論		超音波検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
23	超音波検査の保定		超音波検査の保定方法		
24	内視鏡検査 概論		内視鏡検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
25	神経学的検査 概論		神経学的検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
26	眼科検査 概論		眼の解剖・生理学と臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ		
27	眼科検査 手技		眼科検査の項目と実際の手技を身につける		
28	耳の検査 概論		耳の解剖・生理学と臨床検査の関連性。耳の検査が必要な生体の状態について学ぶ		
29	耳の検査 手技		耳介・外耳道・内耳道検査の種類と手技について学ぶ		
30	皮膚科検査 概論		皮膚・被毛の構造と臨床検査の関連性。動物看護師の役割について。皮膚検査が必要な生体の状態について学ぶ		
31	皮膚科検査 手技		皮膚科検査の種類と実際の手技について学ぶ		
32	授業振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			実習で実践できるように、座学で知識を身に付ける。		
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として5年勤務				

科目名	動物外科看護学Ⅰ				
担当教員	佐山 恭子		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する</p> <p>動物の術前管理、手術室管理、滅菌消毒法、術前準備、麻酔法、手術器具、術中管理、術後管理、包帯法、救急救命法、理学療法</p>				
学習目標 (到達目標)	動物の臨床看護に必要な知識を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	外科診療時の補助に必要な技術	医療ドラマの鑑賞			
2	無菌操作の重要性	清潔と不潔とはを例を交えて			
3	手術前の動物に必要な情報、アセスメント、飼い主に必要な指示	手術を安全に行うための書類の交わし方			
4	手術室の環境管理	衛生管理の徹底			
5	滅菌と消毒	他授業の内容に合わせる			
6	手術施設、設備の準備と管理 衛生的管理と清掃	精密機器のメンテナンスについて			
7	手術施設、設備の準備と管理 機器の管理と消耗品の管理とストックの重要性	在庫管理を行う			
8	術者に必要な準備 手洗いの技術	動画を交えて習得			
9	術者に必要な準備 キャップ、マスク、ガウンの着脱と解除	必要性への理解			
10	術者に必要な準備 グローブの装着	2タイプを習得			
11	手術チームの準備 無菌、滅菌、消毒の知識	意識改善			
12	手術器具の準備と基礎知識① 器具の名称と役割を知る	スケッチ			
13	手術器具の準備と基礎知識② 適材適所の用途	スケッチ			
14	消耗品管理の重要性 使用后使用前のチェック	管理チェック表を用いる			
15	期末試験	後期の実習に向けて総復習			
16	フィードバック	修得状況の確認			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		この科目で学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は怪我や破損につながる恐れがある。積極的に復習に取り組み、時間が経ったから忘れたということがないように取り組む。			
実務経験教員の経歴	動物看護師として動物病院現場において9年間関わっていた				

科目名	動物栄養学Ⅰ				
担当教員	川口 和清	実務授業の有無	○		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	動物栄養学総論	テキスト、資料を使用			
2	基礎栄養学	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
3	基礎栄養素 水、タンパク質①	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
4	基礎栄養素 タンパク質②	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
5	基礎栄養素 炭水化物、脂肪	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
6	基礎栄養素 ミネラル、ビタミン	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
7	イヌとネコの栄養要求の違い①	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
8	イヌとネコの栄養要求の違い② ライフステージ別の栄養管理①	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
9	ライフステージ別の栄養管理②	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
10	ライフステージ別の栄養管理③	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
11	ライフステージ別の栄養管理④	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
12	ライフステージ別の栄養管理⑤ ペットフードの表示の見方①	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
13	ペットフードの表示の見方② BCS評価とカロリー計算の仕方①	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
14	BCS評価とカロリー計算の仕方②	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
15	ペットフードの種類	小テストの実施、テキスト、資料を使用			
16	まとめ	まとめ			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		解剖生理の復習、小テストを実施し、理解度を確認する。			
実務経験教員の経歴	ペットフードメーカーにて企画開発・営業等に携わった				

科目名	動物臨床検査学				
担当教員	岡崎 康隆		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物臨床検査学実習にて習得する、実際の手技に反映できる技術を備えるようにする。検体検査においては、尿検査・糞便検査・血液検査その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値を理解す。特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値を学習する。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物臨床検査学概論		臨床検査の目的と動物看護師の役割を理解する		
2	臨床検査の種類		動物看護師が関わる臨床検査の種類（検体検査、生体検査）にはどのようなものがあるのか、を知る。		
3	主要な検査機器		検体検査・生体検査に使用する主要な検査機器について知る		
6	血液検査 概論 採血法・取り扱い・検査項目		循環器系のはたらきと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ		
7	血液検査 CBC・生化学・血液塗抹標本の作成		全血球計算法（CBC）・生化学検査について学ぶ 血液塗抹標本の作製・染色法・観察法について学ぶ		
8	尿検査 概論		泌尿器系の働きと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ		
9	尿検査 採尿法・取り扱い・検査項目、手技・評価		採尿方法とその取り扱い、尿検査項目、物理的・化学的性状検査・尿沈渣の手技・結果・所見について学ぶ		
10	糞便検査 概論		消化器系のはたらきと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ		
11	糞便検査 採便法・取り扱い・検査項目、手技・評価		採便方法とその取り扱い、糞便検査項目について学ぶ 直接塗抹法・浮遊法・遠心沈殿法の手技・結果・所見に		
12	細胞診検査 概論		細胞診検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
13	微生物学関検査 概論		微生物学的検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
14	遺伝子検査 概論		遺伝子検査の意義と基礎的知識について学ぶ		
15	筆記試験				
16	フィードバック				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動物臨床検査学実習で実際の手技ができるように知識を身に付ける		
実務経験教員の経歴	動物看護師として8年、動物病院に勤務していた				

科目名		動物内科看護学実習Ⅰ			
担当教員	遠藤純一		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	犬や猫の日常的な健康管理や内科療法の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	獣医療を受けるさいに必要な検査や補助業務の内容を理解し、実践できる。 人と犬にとって安全であり、犬が安心していられる接触のしかたを知る。犬の健全な管理と飼育を遂行する重要性を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	実習に参加する動物の健康状態の観察と把握 運動の管理、排泄の管理、病気の早期発見のための管理		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
2	実習に参加する動物の健康状態の観察と把握 運動の管理、排泄の管理、病気の早期発見のための管理		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
3	実習に参加する動物の飼育環境の確認と整備、一般的な管理状態の確認(食事と水、寝る場所など)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
4	実習に参加する動物の飼育環境の確認と整備、一般的な管理状態の確認(食事と水、寝る場所など)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
5	保定法(犬、猫)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
6	保定法(犬、猫)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
7	保定法(エキゾチックアニマル)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
8	保定法(エキゾチックアニマル)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
9	バイタルチェックと体重測定、定期的な健康診断		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
10	バイタルチェックと体重測定、定期的な健康診断		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
11	注射器及び管理方法 注射針、シリンジ等の取り扱い、留置針設置		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
12	注射器及び管理方法 注射針、シリンジ等の取り扱い、留置針設置		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
13	採血の方法		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
14	採血の方法		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
15	総復習		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
16	期末試験		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
17	採尿の方法		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
18	採尿の方法		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
19	薬の処方について 薬の取り扱いと基礎知識		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
20	薬の処方について 薬の取り扱いと基礎知識		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
21	内服薬の使用法、薬剤の注射法、外用薬の使用法		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
22	内服薬の使用法、薬剤の注射法、外用薬の使用法		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
23	食事の管理と関わり 人工的な給仕、症状に合った調理		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
24	食事の管理と関わり 人工的な給仕、症状に合った調理		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
25	輸液に関わる技術 輸液管理の基礎知識、輸液の目的、総輸液量を確認する必要性と計算、輸液ルート		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
26	輸液に関わる技術 輸液管理の基礎知識、輸液の目的、総輸液量を確認する必要性と計算、輸液ルート		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
27	輸血に関わる技術 輸血の基礎知識		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
28	輸血に関わる技術 輸血の基礎知識		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
29	被毛や皮膚の管理の実践 (ブラッシング、シャンプー、歯磨きなど)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
30	被毛や皮膚の管理の実践 (ブラッシング、シャンプー、歯磨きなど)		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
31	総復習		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
32	期末試験		座学で学んだ内容を実習にて実践 動物看護実習テキスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として5年勤務				

科目名		動物臨床検査学実習Ⅰ			
担当教員		岡崎 康隆		実務授業の有無	○
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	動物臨床検査学で修得した知識の実践力を身に付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	検査の種類と目的	パワーポイント資料			
2	身体一般検査	学校飼育動物（犬、猫）での実習			
3	血液検査①：CBC検査の手技の確認、採血の補助	動物看護実習テキスト			
4	血液検査②：血液塗抹標本の作製と染色	実習（塗抹作成と染色）			
5	血液検査③：ヘマトクリット管の使用法	実習（ヘマトクリット管と遠心分離機）			
6	血液検査④：自動血球計算機による検査	実習（自動血球計算機）			
7	血液検査⑦：網状赤血球とニューメチレンブルー染色	実習（赤血球の染色と鏡検）			
8	血液検査⑧：白血球分画	実習（血液塗抹の観察）			
9	血液検査⑩：生化学検査、血液生化学検査機器の確認	実習（血液生化学検査）			
10	血液検査⑫：凝固系検査、輸血時のクロスマッチ検査	動物看護実習テキスト 実習（マイクロピペットの使用法）			
11	尿検査①：採尿法と必要な機材の準備、検体の取り扱いと保存	実習（採尿）			
12	尿検査③：一般検査、尿検査試験紙、科学的検査、尿沈渣	実習（尿検査）			
13	糞便検査①：糞便の一般性状、採便法と保存法と取り扱い	実習（採便）			
14	糞便検査②：顕微鏡検査	実習（便検査）			
15	細胞診	実習（標本作成手順と固定、染色）			
16	筆記試験	器具の準備や検査手技の確認			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		動物臨床検査学（座学）の知識をもとに実習を行う。			
実務経験教員の経歴	動物看護師として8年、動物病院に勤務				

科目名	動物外科看護学実習Ⅰ				
担当教員	佐山 恭子		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには、日頃からの手術器具、機材の管理が必要となり、術中の補助では麻酔下の看護動物がどのような状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。				
学習目標（到達目標）	正常と異常の状態を理解し、異常が見つかった場合は速やかに獣医師に報告し、獣医師の指示に基づき行動がとれるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	手術補助 外科実習の流れ、周術期看護とは何か		周術期のうち手術中に関する項目を学ぶ		
2	器具機材の準備 手術器具、縫合、ドレープ、電気メス、器具の滅菌と管理		手術中に用いる器具の理解を深める		
3	麻酔前評価、術前の準備 麻酔前に動物を評価する目的とは		実際に行われる手術の内容をイメージできるようにする		
4	術者の準備 日常～当日、手洗い、ガウン、グローブ		身体検査、血液検査、X線検査などを行い、動物の総合評価を行う。		
5	動物の準備 毛刈り、消毒、ドレーピング		イヌ・ネコの避妊・去勢手術を想定して、衛生的に手術を行い、術中・術後の清潔が保てる		
6	気道確保 準備、手順		気道確保に必要な備品の準備をし、手順を理解した上で、的確に処置者のサポートができる		
7	麻酔とは 麻酔の定義、麻酔状態について		麻酔の定義を知り、麻酔とはどういったものなのか理解する		
8	麻酔薬の作用 麻酔前投与薬、鎮痛薬		麻酔前投与薬、鎮痛薬を投与する意義を理解する		
9	麻酔導入 麻酔導入方法の理解		手術の流れにおける患者管理の内容を理解する		
10	麻酔器の構造と管理 麻酔器の仕組みの理解		一般的な麻酔器の構造を理解し、管理ができる		
11	モニター機器の準備と管理 必要な備品の準備をし、正しく接続ができる		手術の流れにおける看護動物の管理に必要な設備・装置を理解する		
12	動物のモニター 人間の五感を使った動物の評価方法		麻酔モニタリング装置を用いないモニタリング方法や用いているモニタリング方法について理解を深める		
13	まとめ 外科看護技術の習得		今までに習ったことの総復習		
14	実技試験		今までに習ったことの総復習		
15	筆記試験		今までに習ったことの総復習		
16	フィードバック		修得状況の確認		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動物外科看護学で習得した内容の実践となる。刃物を扱うこともあるため、気を引き締め、まじめに取り組む。動物外科看護学Ⅱへの履修も視野に入れ、積極的な実習参加が臨まれる。		
実務経験教員の経歴	動物看護師として動物病院現場において9年間関わっていた				

科目名	動物看護総合実習Ⅰ				
担当教員		実務授業の有無	○		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	90
授業概要、目的、授業の進め方	<p>修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>いままで修学した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養い自身に不足している部分を理解できる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書</p>				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発揮したい事項① 医療チームの一員として相応しい態度、学習者としての相応しい態度				
2	学びたい技術① 動物病院に必要な環境に関するアセスメント・整備技術				
3	学びたい技術② 動物病院に必要な食事に関するアセスメント・介助技術				
4	学びたい技術③ 排泄技術				
5	学びたい技術④ 動物病院に必要な活動・休息・援助に関するアセスメント・介助技術				
6	学びたい技術⑤ 動物病院に必要な身体の清潔に関するアセスメント・援助技術				
7	学びたい技術⑥ 動物病院に必要な身体の呼吸・循環に関するアセスメント・技術				
8	学びたい技術⑦ 動物病院に必要な創傷管理に関するアセスメント・技術				
9	学びたい技術⑧ 動物病院に必要な投薬に関するアセスメント・技術				
10	学びたい技術⑨ 動物病院に必要な生体機能管理に関するアセスメント・技術				
11	学びたい技術⑩ 動物病院に必要な感染予防に関するアセスメント・技術				
12	学びたい技術⑪ 動物病院に必要な安全管理に関するアセスメント・技術				
13	学びたい技術⑫ 動物病院に必要なコミュニケーションに関するアセスメント・技術				
14	学びたい技術⑬ 動物病院に必要な周術期の看護に関するアセスメント・技術				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動物病院での臨床実習		
実務経験教員の経歴					

科目名	動物愛護・適正飼養実習ⅠB				
担当教員	山田佳枝	実務授業の有無	×		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	<p>グルーミングの目的・効果及び、動物看護におけるグルーミングの重要性について学ぶ。</p> <p>体表や被毛の部位・毛色など、グルーミングに際し必要な専門用語について学ぶ。</p> <p>被毛や皮膚の管理の実践（ブラッシング、シャンプー）</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>適切なシャンプー剤の選択が出来、動物にストレスなくグルーミングが出来る。</p> <p>また飼い主への日常のケアのアドバイスが出来る。</p> <p>被毛や皮膚に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告することが出来る。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	グルーミング実習の目的、グルーミングの流れ、グルーミング道具の名前、使い方				
2	ウィッグを使っでのグルーミングデモ				
3	グルーミング実習（実践）	チワワ、ダックス等	犬種ごとのグルーミング方法を学ぶ		
4	グルーミング実習（実践）	パグ、ポメラニアン等			
5	グルーミング実習（実践）	チワワ、ダックス等			
6	グルーミング実習（実践）	プードル、マルチーズ			
7	グルーミング実習（実践）	シュナウザー			
8	グルーミング実習（実践）	ヨークシャーテリア			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	専門学校教員歴 15年				

科目名					
動物愛護・適正飼養実習ⅠA					
担当教員	佐藤 大輝、佐山 恭子		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	<p>実習前座学：実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習：座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。 掃除においてはインターンシップと基本となる項目。 動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ。 対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動物看護実習テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アレルギー調査、実習スタイルについて、飼育室の出入り方法		教員が見本となる、実習室への見学		
2	消毒や手洗いの実施について、犬について (PD、テキスト)		理由を明確に伝え納得させる、犬の触れ合い		
3	猫について (PD、テキスト)、管理帳の記入の仕方について		管理帳見本を配布し記入させる、猫の触れ合い		
4	小動物 (ウサギ、モルモット、ハムスター) について		自作プリントを配布、小動物の触れ合い		
5	飼育室の見学 (物の配置確認)、掃除の仕方、洗濯方法		先輩に指導を受ける、メモをとる		
6	病気の予防や診察について、日誌の書き方		日誌を実際に書いてもらう		
7	実習前の総確認、小テスト		実習に必要な技術を見直す		
8	フィードバック		覚え直し		
9	(実習) 犬の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (犬) への接触方法、管理方法を学ぶ		
10	(実習) 猫の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (猫) への接触方法、管理方法を学ぶ		
11	(実習) ウサギの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ウサギ) への接触方法、管理方法を学ぶ		
12	(実習) モルモットの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (モルモット) への接触方法、管理方法を学ぶ		
13	(実習) ハムスターの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ハムスター) への接触方法、管理方法を学ぶ		
14	(実習) 犬の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (犬) への接触方法、管理方法を学ぶ		
15	期末試験 (筆記)		正しい知識を覚えているか		
16	フィードバック		間違えたままにせず、確認を行う		
17	(実習) 犬の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (犬) への接触方法、管理方法を学ぶ		
18	(実習) 猫の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (猫) への接触方法、管理方法を学ぶ		
19	(実習) ウサギの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ウサギ) への接触方法、管理方法を学ぶ		
20	(実習) モルモットの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (モルモット) への接触方法、管理方法を学ぶ		
21	(実習) ハムスターの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ハムスター) への接触方法、管理方法を学ぶ		
22	(実習) 犬の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (犬) への接触方法、管理方法を学ぶ		
23	(実習) 猫の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (猫) への接触方法、管理方法を学ぶ		
24	(実習) ウサギの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ウサギ) への接触方法、管理方法を学ぶ		
25	(実習) モルモットの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (モルモット) への接触方法、管理方法を学ぶ		
26	(実習) ハムスターの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ハムスター) への接触方法、管理方法を学ぶ		
27	(実習) 犬の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (犬) への接触方法、管理方法を学ぶ		
28	(実習) 猫の管理、お世話、食事について		WaNファミリー (猫) への接触方法、管理方法を学ぶ		
29	(実習) ウサギの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (ウサギ) への接触方法、管理方法を学ぶ		
30	(実習) モルモットの管理、お世話、食事について		WaNファミリー (モルモット) への接触方法、管理方法を学ぶ		
31	期末試験 (筆記)		正しい知識を覚えているか		
32	フィードバック		間違えたままにせず、確認を行う		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			飼育経験のない動物もいることから、接触方法や飼育管理方法の違いについて習得し、実践する。苦手意識が出ないよう、わからないことをそのままにせず先輩や先生に質問し、自信をつけていく。		
実務経験教員の経歴					

科目名	就職実務Ⅰ				
担当教員	平石 理恵	実務授業の有無	×		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	<p>毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。</p> <p>身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年（翌々年）の就職活動を意識する。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>就職活動の心構えと流れを知ることができる。</p> <p>自分と職業を理解することができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	これからどう生きていくか、一生でどのくらい稼げるのか、どんな生活を送りたいか、社会はどんな人材を求めているのか	プリント			
2	チャンスを逃がさない、働く理由を考える	プリント			
3	伝わる文章の書き方、相手を納得させる論理力、構成を考える	プリント			
4	自己PRのネタを探す、自己PRの骨格をつくる、説得力のある自己PRをつくる	プリント			
5	BtoBとBtoCの違いを知る、業界について考える、職種について考える	プリント			
6	求職登録面接とは何か、求職票作成の仕方、インターンシップとは何か、インターンシップ申込書作成の仕方	プリント			
7	求職票作成、自己PR作成、面接練習①	個別作業			
8	求職票作成、自己PR作成、面接練習②	個別作業			
9	求職票作成、自己PR作成、面接練習③	個別作業			
10	身だしなみセミナー、求職登録面接	女子メイクセミナー、男子身だしなみセミナーを受講 求職登録面接を受ける			
11	インターンシップ履歴書作成の仕方	プリント			
12	企業研究の仕方、志望動機の書き方	プリント			
13	履歴書作成、志望動機作成①	個別作業			
14	履歴書作成、志望動機作成②	個別作業			
15	インターンシップ日誌の作成の仕方、身だしなみについて	プリント			
16	就職研修	インターンシップに向けての心構えと問題事例、また今後の就職活動に向けての心構えを学ぶ			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		書類作成や面接練習をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。面接練習は必ず事前に準備をしておくこと。			
実務経験教員の経歴					

科目名	コミュニケーション実践Ⅰ				
担当教員	平石 理恵	実務授業の有無	×		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。</p> <p>コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>周囲の人と「話す」こと、「聞く」ことによって円滑なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>コミュニケーション検定初級合格できる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社サーティファイ コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	コミュニケーションを考える、目的に即して聴く	P2-9			
2	傾聴・質問する	P10 -14			
3	目的を意識する、話を組み立てる	P15-22			
4	言葉を選び抜く	P23-29			
5	表現・伝達する	P30			
6	来客応対	P36-39			
7	電話応対	P40-43			
8	アポイントメント・訪問・挨拶	P44-48			
9	情報共有の重要性、チームコミュニケーション	P49-59			
10	接客・営業、クレーム対応	P60-71			
11	会議・取材・ヒアリング、面接	P72-82			
12	模擬問題	P84-99			
13	過去問題①	P100-115			
14	過去問題②	P116-131			
15	過去問題③	P132-148			
16	コミュニケーション検定				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
<p>成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>		<p>コミュニケーション検定合格のために、毎回授業に出席する。</p>			
実務経験教員の経歴					

科目名		ビジネスマナー			
担当教員	小林 美江	実務授業の有無	×		
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。</p> <p>また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	社会人常識マナー検定に合格できる、ビジネスマナーを身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ウイネット 実践ビジネスマナー 公益社団法人全国経理教育協会 社会人常識マナー検定試験				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	仕事に取り組む心構え	P8-12 教務室入退室・書類の提出の仕方チェック			
2	報告・連絡・相談、会社の組織	P13-16 指示を受けて業務を遂行し報告するロールプレイング			
3	基本動作、言葉の遣い方	P18-30 お辞儀・椅子の座り方チェック			
4	受付の仕方、名刺の渡し方	P32-40 受付ロールプレイング			
5	取り次ぎの仕方、案内の仕方	P41-48 受付→応接室案内ロールプレイング			
6	応接室の案内の仕方、お茶の出し方、環境整備	P49-56 お茶出しロールプレイング			
7	電話の受け方、伝言メモ	P55-69			
8	電話のかけ方	P70-76 インターンシップ確認電話ロールプレイング			
9	慶事業務	プリント			
10	弔辞業務、お見舞い	プリント			
11	社内で使用する備品、郵便の取り扱い	プリント			
12	ビジネス文書とは、社内文書作成の仕方、メールの送り方	プリント iPad (スマホ) でメール作成送信添削			
13	社外文書作成の仕方	プリント PC (iPad) で社外文書作成提出添削			
14	お礼状の作成の仕方	プリント 直筆でお礼状作成提出添削			
15	期末試験				
16	期末試験、解答・解説				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		<p>積極的にロールプレイングに取り組み、提出物の期限は守ること。</p> <p>インターンシップ前後に行う電話がけやお礼状作成など、マニュアル通り行えないことを理解し、臨機応変に対応できるように毎日の学校生活でもビジネスマナーを意識すること。</p>			
実務経験教員の経歴					

しつけトレーニング実習					
科目名	しつけトレーニング実習				
担当教員	金子 真弓		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	1.犬のトレーニング実技を行う。 2.実際の道具やデモンストレーションを見る。 3.テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できる 犬と関わる上での必要な事や必要な物を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	犬の問題はこうして直す「THE Tool Box」				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	・犬の観察・しつけとは？、問題行動とは？飼い主にとって好ましくない行動⇒好ましい行動として肯定文として説明				
2	・リーダー、アルファとは？上下関係、支配関係×、パピーの結核について、所有欲について ・おもちゃで遊ぶことについて・リードの持ち方、近くでアード、近くを歩く、回す		テキスト使用		
3	・飼い主の手を良いものに学習させる・「ピーナツバター療法」でケア時に条件付け、マズルコントロール、アルファロール×・トレーニング⇒回す、オスワリ、フセ (誘導で)		テキスト使用		
4	・ケージ/クレートに慣して・オスワリ、フセ、タテをそれぞれの姿勢から誘導 (オスワリコマテ、オスワリコマテ、フセコマテ)		実際の道具を見せる、トレーニングの方法をデモンストレーション		
5	・犬を家族として迎える前に準備するものは？ ・名前を教える、アイコンタクト、近くを歩く		実際の道具を一部見せる		
6	・犬を家族として迎える前に準備しておきたいことについて (どんな犬？成犬or子犬orオスメス、犬種など) ・実習：コングを作る (中に食べ物を詰める)、回す、横につける、アテンションなど				
7	・ストレスについて 3つのF、カーミングシグナルについて ・実習：立ち方について (バランス良く立つ、犬の肩に立ち犬胸を向くこと)		テキスト使用		
8	・犬の行動問題について：原因は？犬種の特徴、身体の不快、先天的な要因、社会化不足などについて ・実習：Tタッチ、立ち位置 (犬の肩の辺りに立ち、犬胸を少し向く)、リードの持ち方				
9	・学習理論：報酬はランダムにしておく、誘導から合図をつける⇒ハンドシグナル ・回す、オスワリコマテをハンドシグナル、マッチ				
10	・トイレットトレーニングについて ・ハンドシグナルでオスワリ、フセ、回す、マッチ、Tタッチ		DVD鑑賞		
11	・合図を教えるトレーニングについて				
12	・嫌悪刺激を使ったトレーニングの仕組み (モチベーションを使った方法) ・自発的アイコンタクト、左右にご褒美を持った手を移動させてトレーニング				
13	セトルダウン：飼い主の足元で大人しく落ち着く (フセの状態で)、マグネットトレーニング：誘導とは異なり、全てのトレーニングの幹		足元でフセするトレーニングのデモンストレーション		
14	・ボディランゲージ、カーミングシグナルについて ・呼び戻し、近くを歩く (人がボール役になり、8の字で歩く)		DVD鑑賞		
15	・古典的条件付け (拒否条件付け、逆条件付け)、正の罰について罰とは？嫌悪刺激 ・古典的条件付けでブラシ、手、ハンドタオルで触る刺激に慣らす				
16	・散歩の引っ張りについて (ジェットリーダー、ハルディ、イージーウォークハーネスについて)		実際の道具を見せてデモンストレーション		
17	・シェーピングについて (人だけでクリッカーの練習)		トラップを使用して、人同士で練習		
18	・動画鑑賞：パピークラス、フリースタイルなど ・実習：クリッカートレーニング、犬がイスの上の前足を乗せる、イスの下に頭を入れる		モニターより動画観賞 (実際の教室の様子など)		
19	・Tool Box：健康、環境を豊かにする、リーダーシップ、管理、安眠、原因を取り除く、系統的脱感作、ご褒美を取り除く・ハンドシグナルのトレーニング (オスワリ、フセ、回す)		テキスト使用		
20	・Tool Box：両立しない行動にご褒美を与える、慣らす、問題付けの改善、嫌悪刺激、Tool Boxを使って、問題を解決を考える (8組に分かれて)、実習：呼び戻し		テキスト使用		
21	・シェーピング (クリッカートレーニング) ・人同士でクリッカートレーニング：クリッカー配布				
22	・シェーピング② (クリッカートレーニング、基準が大きい場合は細かく分ける) ・人同士でクリッカートレーニング、犬でのシェーピングデモ：イスの下に頭を入れる				
23	・シェーピング③ (クリッカートレーニング) ・人同士でクリッカートレーニング、犬にクリッカーでトレーニング				
24	・シェーピング④ (クリッカートレーニング) ・人同士でクリッカートレーニング、犬にクリッカーでトレーニング (オスワリ、フセでクリッカー配布)				
25	・シェーピング⑤ (クリッカートレーニング) ・人同士でクリッカートレーニング、犬のクリッカーでトレーニング (イスの下に頭を入れる)				
26	・シェーピング⑥ (クリッカートレーニング) ・人同士でクリッカートレーニング、犬のクリッカーでトレーニング (イスの下に頭を入れる続)				
27	・犬の本能：食物獲得、危険回避、繁殖⇒トレーニングで食物獲得を利用、食べ方が強い (痛い) 犬のトレーニング、おもちゃ遊びデモ・行動に合図を付ける				
28	・犬の本能：食物獲得、危険回避、繁殖⇒トレーニングで食物獲得を利用、食べ方が強い (痛い) 犬のトレーニング、おもちゃ遊びデモ・行動に合図を付ける				
29	・古典的条件付け、拒否条件付け、脱感作について				
30	・オペラント条件付けについて				
31	・呼び戻しについて				
32	・トリーツをランダムにしてルアーを無くすトレーニングについて				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	しつけインストラクターとして約25年以上活動				

科目名	コンピュータ実習Ⅰ				
担当教員	古保 秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	日本語文章入力のある程度の速さで、正確に行えるようにする Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験 3級 取得することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Word2016 クイックマスター 基本編 Word文書処理技能認定試験 3級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Wordの基本		授業の目的の理解 Windows基本操作、基本知識の重要性		
2	Chapter2 文字の入力と編集の基本操作 Chapter3 文書の編集		日本語入力の基本操作の確認 正確な入力の重要性、コピー・移動の状況に応じた方法		
3	Chapter3 文書の編集		Wordにおける段落書式の重要性		
4	Chapter3 文書の編集 Chapter4 文書の印刷		C2～3で学習した内容を該当設問で確認 タブ機能の重要性の理解、タブ設定とタブ挿入の理解		
5	Chapter5 文書の作成		ルーラーの重要性の確認		
6	Chapter6 表を使った文書の作成		表作成・編集の基本の理解、操作に応じたりボンの確認 C4～6で学習した内容を該当設問で確認		
7	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成		オブジェクト作成・編集操作の基本の理解		
8	練習問題 1		QMで学習した機能を確認しながら設問解答 実用目的の成果物として完成させる		
9	練習問題 2～		「作成」ファイルと「編集」ファイルの保存の必要性、 名前を付けて保存と上書き保存の理解の重要性		
10	練習問題		完成確認後、各自で次の練習問題に進む 練習問題2「編集」の確認と疑問点などの確認・回答		
11	練習問題		〃		
12	模擬問題		〃		
13	模擬問題		〃		
14	試験実施プログラム 模擬問題		プログラム操作方法・試験の流れの確認 画面配置に慣れる。解答ファイル採点		
15	試験実施プログラム サンプル問題		前問題振り返り 時間計測して実施 解答ファイル採点		
16	検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、文書作成の方法をしっかりマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。		
実務経験教員の経歴	一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた				

科目名	グルーミング理論				
担当教員	山田 佳枝		実務授業の有無	×	
対象学科	動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名、使用方法を学ぶ。 グルーミングを行う上での注意点を理解する。また、犬種についての知識も学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	犬種への理解を深め、犬種ごとに必要なグルーミング方法を選択できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インターズー ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック インターズー 最新犬種図鑑				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	グルーミングの目的、トリマーの心構えについて				
2	シャンプー剤の知識、グルーミングの流れ・注意点①				
3	グルーミングの流れ・注意点②、道具の使い方				
4	スタンダードの理解、体表の生理				
5	犬種について 1G、2G、3G		各グループの中の代表犬種について学ぶ		
6	犬種について 4G、5G、6G				
7	犬種について 7G、8G、9G、10G				
8	期末試験				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	専門学校教員歴 15年				